

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年1月分)

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |
|----------|-----------------------|--|
| 食料品 | 調味材料製造業 | 県内の醤油出荷量は、前年同月に比べて大幅に減少となった。平成18年度の累計出荷量もかなりの減少となっており、先行きが見えない状態である。 |
| | パン・菓子製造業 | 暖冬の影響で旅行客を見かけるものの、昨年に比べると売上高は減少している。 |
| 繊維・同製品 | その他の織物業 | 1月度は、全体的に年末の需要に伴う流れからやや持ち直すが、中旬以降は非常に厳しい状況で推移した。産業資材、低価格製品はコンスタントな需要を得られるが、薄利多売の様子である。その他として、業界では昨年より二極化が進んでおり、明暗がはっきりとしている。今後は、各企業の短期・中期の計画内容とその為の努力によってさらに差が広がるものと思われる。 |
| | 織物業 | 一部設備の更新が進んでいる企業を除き、パーツの入手が困難な状態となっており、稼働に影響が出ている。 |
| | 織物業 | きもの業界では大型小売店の倒産により、その整理等に伴う大量在庫の安値処分の悪影響が懸念され受注が激減しており、業界を根底から揺るがすような厳しい状況が続いている。合繊分野では差別化少量商品は受注が増加しており、価格も上昇傾向にある。しかし、生産コストの上昇と開発費の増大により、まだまだ採算面では厳しい状況が続いている。 |
| | ねん系製造業 | 昨年の秋以降、郵政民営化に伴い「ユニフォーム」の大量受注が出た事が大きな産地の風となっている。合繊素材が中心だけに北陸全体に特需となったのはプラス面である。ただ、この時期がいつまでも続くものではなく、暖冬で冬物衣料の売行きが伸び悩んでいることもあり、春先以降に大きな懸念を持っている。 |
| | ニット生地製造業 | 稼働状況は変わらないものの、原料高の状況が定着している。原料高の値上げ分を価格に転嫁する事も難しい状況である。受注自体はあるものの採算ダウンを余儀なくされ、企業体力の消耗が進んでいる。 |
| | その他の織物業 | 1月度は昨年同月に比べ売上が20%の減少となった。特に収益の悪化が止まらず、組合員はもちろん、組合運営にとっても極めて厳しい状況が続いている。昨年12月、今年の1月と従業員の減少が続き、売上の減少、収益の悪化、一般経費の縮小と縮み志向への悪循環へと陥っている。 |
| 木材・木製品 | 製材業、木製品製造業 | 昨年は、大雪の影響から入荷量が減少していたが、今年は暖冬のため入荷量は順調に推移している。だが、業況が好転しているとは言い難い。 |
| | 製材業、木製品製造業 | 1月度の売上は、雪の影響が無く順調に推移した。だが、昨年は年間を通じて値上げ一辺倒であった。年が変わり不需要期に入っても依然として様子が変わらず値上げ基調であり、この状態はしばらく続くのではないかと思われる。その他の情報として、全国的なパワービルダーの北陸進出が決定的となり、今後の動向に注視しなければならない状況である。 |
| 窯業・土石製品 | 砕石製造業 | 1月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比では合材用アスファルト向け出荷が4.4%減少したものの、生コン向け出荷が15.5%増加となり、全体量でも7.7%の増加となった。昨年は、大雪に見舞われ、稼働率も非常に低かったが、今年は僅かながら増加に転じた。しかし、暖冬のわりには伸び率が低いと感じている。 |
| | 陶磁器・同関連製品製造業 | 2月中旬まで、テーブルウェアフェスティバル2007(東京ドーム)が開催されているが、売上は昨年並みになるとされる。これからはインターナショナルギフトショー(東京ビッグサイト)と伝統的工芸品WAZA2007(池袋東武百貨店)への出展に向けての準備を進めており、九谷焼を広くPRしたいと考えている。 |
| | 生コンクリート製造業 | 県内の生コンクリートの出荷状況は、1月末現在、前年同月比105%とプラスの出荷量となった。地区状況は、南加賀、鶴米・白峰、金沢、能登地区がプラスとなったものの、羽咋・鹿島、七尾地区はマイナスで推移した。官公需、民需では両方とも前年同月比プラスで推移した。これは大雪の影響が少なく出荷量が増加した事と、好天による前倒し施工とが合わさった増加と思われる事から、今後の出荷状況が心配である。 |
| | 粘土かわら製造業 | 1月は雪が積もらなかったため、昨年に比べ出荷量が20%増加した。 |

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年1月分)

| | | |
|---------|------------------|---|
| 鉄鋼・金属 | 一般機械器具製造業 | 当団地の西隣に新工業団地が出来る事に正式に決定し、当団地内でも手狭な企業の何社かは早々に申し込むため予定案を作成しており、組合もいくつか相談を受けている。 |
| | 非鉄金属・合金圧延業 | 前月と同様で特に変化は認められない。 |
| | 鉄素形材製造業 | 平成18年の県内鉄鉄物業界の生産量は、統計的には32,000トンと平成10年代に入って最も多い生産量を示しており、前年比12.5%増となっている。この数値は、20人以上の企業を対象にした統計上のものであって、20人未満の企業を含めた生産量は50,000トンに近い事が考えられる。これは、自動車を含む輸送機械産業と建設機械、工作機械関連産業の活況に支えられてきたものと考えられる。 |
| | 鉄素形材製造業 | 前年同月に比べ、売上高及び操業度が低下している。ただし、通年で見ると、昨年度とほとんど変わらない状況で推移している。 |
| 一般機器 | 機械金属、機械器具の製造 | 特に変化は認められない。 |
| | 繊維機械製造業 | 業界は相変わらず好調であり、昨年並みの高水準が続くものと思われる。 |
| | プレス、工作機械 | 1月は例月に比較して休日が多く売上高は減少した。現在の受注の中には2～3月納期の受注がかなりあり、来期もかなり高い水準で生産が推移するものと思われる。ただし、鋼材の中でも特にステンレスの価格がいまだに高騰し続けており、価格に転嫁出来なければ収益を圧迫する要因となるので、今後に注視しなければならない。 |
| | 機械器具及び其の他金属製品の製造 | 一般的に受注減の傾向が見られる。また団塊世代の定年の到来により、定年退職者の増加傾向も見られる。 |
| その他の製造業 | 漆器製造業 | 例年、稼働日数の少ない1月は売上が落ち込むのが普通だが、今年は暖冬で雪が無いのも幸いして落ち込みが小幅であった。設備関連業界は、設備投資の好調な推移により、強含みで臨んでいる。 |
| | 漆器製造業 | 昨年11月～12月のペースダウンに加えて、年初の休日の関係から業界の稼働開始日が10日前後となり動きが鈍くなっている。1月中旬に開催された名古屋市の陶器業界との合同展示会では、来場バイヤー数が昨年対比5%から10%に伸びており、こちらは賑わった様である。 |

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |
|----------|--|--|
| 卸売業 | 繊維品卸売業 | 特に変化は見られないが、小売店の倒産が幾つか出てきており、気になるところである。 |
| | 農畜産物・水産物卸売業 | 売上高は横ばいで推移している。魚の消費がやや落ち込んでいるように感じる。今後の動向に注視していきたい。 |
| | 一般機械器具卸売業 | 1月は暖冬の影響から、現場の進行状況が早く、荷動きも例年に無く活発である。今年は、オール電化等の昨年軌道に乗った施策を強力に押し進めていきたい。 |
| 小売業 | 燃料小売業 | 電化住宅の普及や暖冬の影響から灯油の売上が減少している。ガソリンの売上も減少しており、採算は悪化している。 |
| | 機械器具小売業 | 1月に入ってからPDP・液晶テレビ、ルームエアコン、冷蔵庫の売上が鈍化した。全体では前年同月比85%で推移し、昨年3月より続いていた前年対比100%以上の伸び率を達成する事が出来なかった。 |
| | 男子服小売業 婦人・子供服小売業 | 降雪が無く暖冬ではあったが、婦人衣料(コート類、高額品は除く)全般の売上は横ばいで推移した。子供服、紳士服関係は不調であった。それでも、前年同月に比べて極端に落ち込んだわけではなく、前年比97.8%で推移した。 |
| | 鮮魚小売業 | 1月上旬は好天が続いたが、入荷量が少なく全体的に高値で推移した。中旬に入ってから入荷量にばらつきがあったため、価格も安定しなかったが、下旬になってようやく入荷量が豊富になり、価格が落ち着いた。 |
| | 他に分類されない その他の小売業 | 昨年は大雪の影響で観光客が激減したが、今年は順調に推移している。食品関係も前年を上回っているが、工芸品関係は苦戦が続いている。暖冬もこれだけ続くとし心配である。 |
| | 百貨店・総合スーパー | 1月の売上は、予算比95.2%、前年比97.1%と前年を下回った。正月3日間の売上は、前年比96.8%と1月の売上とほぼ同じであった。1月は3日からのバーゲンの関係で8日まではまずまずの売上であったが、それ以降はあまり良くなかった。 |
| 米穀類小売業 | 例年のように1月の販売量は減少している。今後のFTA(貿易の自由化)の問題に関しても先行きが見えずに不安である。 | |

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年1月分)

| | | | |
|------------------|-------|--------------|--|
| 非 製 造 業 | 商店街 | 近江町市場 | 人出は若干ではあるが、増えてきている。 |
| | | 尾張町商店街 | ついに観測史上初の1月降雪ゼロになった。これは単なる数値だけにとどまらず、人類の生息する地球環境そのものに今後大きく影響してくる問題となりそうである。実際、季節物商品(衣料品など)関係は、この好天気で売上がすっかり落ち込んでいるし、スキー場などのウインタースポーツもなりを潜めてしまっている。季節にこだわらない基礎的なものだけが、この異常気象の中で何とか売上を維持しているように思える。こうした時には、つい平常の仕事からはみ出したような事業展開をしたがる店もあるようだが、逆に一時の事に走っては危ないような気がする。 |
| | サービス業 | 旅館、ホテル | 昨年の同期より全体施設において、個人消費が減少しており、金沢市内の宿泊客数は低調に推移している。やはり大手ビジネスホテルの進出に伴い、宿泊客が分散している事が影響しているものと思われる。 |
| | | 旅館、ホテル | 昨年と比べ大雪の影響や風評が無い事はプラス要因ではあるが、それ以外のプラス要因が見当たらない。ただ、前年に比べ、プラスで推移している施設が若干ではあるが増加している。 |
| | | 自動車整備業 | 継続検査実績車輛数は、前年同月比4.2%増、前月比1.3%増となった。新規検査状況は、前年同月比1.3%減、前月比13.8%減となった。 |
| | | 旅館、ホテル | 宿泊人員は既存旅館、新規旅館ともに少し増加したが、個人消費額は低落傾向にあり、全体の総売上額は減少している。景気回復が感じられない状況下、消費志向の多様化などの影響から、旅館業には厳しさが強まっている。 |
| | 建設業 | 一般土木建築工事業 | 建設工事の受注高は、前年同月比26.4%の減となった。内訳は、民間土木34.7%増、民間建築56.5%減となっており、民間としては43.2%減で推移した。公共土木は3.3%増、公共建築は42.6%減となり、公共としては3.2%減で推移した。公共は依然として低迷状況にある。 |
| | | 一般土木建築工事業 | 建設業界が直面している経営上の問題点は、需要の停滞に伴う競争の激化、資材等の仕入単価の上昇に反しての販売単価の低下と上昇難、金融機関の建設業に対する厳しい見方と金利負担の増大の三点が挙げられる。世間では好転の兆しと言われているが、実感は全く無く、公共工事・民間工事とも心細い限りである。 |
| | | 板金・金物工事業 | 1月は天候に恵まれたが、仕事量は減少した。その他として、受注競争の激化の影響による受注単価の下落が続いている。 |
| | 運輸業 | 一般貨物自動車運送業 | 1月の軽油価格は横ばいで推移した。大雪の影響も無く、荷動きも順調であった。だが、二年前からの軽油価格の値上げ分の運賃転嫁が一向に進んでいない。2月には軽油価格が引き下げられる事から、運賃改定交渉がやり難くなった。 |
| | | 一般乗用旅客自動車運送業 | 2011年以降においてテレビ放送がデジタル化されるが、このデジタル化は家庭に限らずタクシー業界においても大きな影響を及ぼす。今日の厳しい事業環境を乗り切るため、情報化は避けて通れない事ではあるが、移行に伴う設備投資は中小企業者の経営基盤を揺るがしかねない。昨今の料金改定の動きには、こうした無線のデジタル化に向けて多少なりとも体力を蓄えておかなければとする業界の思いも込められている。 |
| | | 一般貨物自動車運送業 | 荷動きは上向いており、売上高も僅かに上昇傾向にある。ただ運転手が不足しており、受注に対応出来ないケースが見られる。軽油価格は部分的に低下が見られており、収益状況も多少は回復傾向にある。 |

行政庁・中央会に対する要望事項

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 | 行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等 |
|----------|--------|--------------------------------|
| | | |
| | | |